

6. 山梨県 山中湖情報創造館

YA（ヤングアダルト）サービス充実手法の調査研究および実施 —ジュニアライブラリアンによる地域を支える情報拠点づくり— (平成19年度地域の図書館サービス充実支援事業)

(1) 事業の趣旨・概要

小学校高学年、中学生を対象とした「ジュニアライブラリアン」を任命し、地域を担う人材の育成を行うとともに、地域の情報を充実させることで、地域を再発見する拠点としての図書館づくりを行う。また、ジュニアライブラリアン自らが企画・運営するプログラム等を通じ、青少年の図書館利用の促進を図るとともに、メディア制作、情報発信活動を通じ、メディアリテラシーを養う。

それらの活動を通して、地域の図書館が文芸作品の読書のみであるだけでなく、地域における様々な年代の情報活動拠点であることを地域住民に伝える。

※委託先・図書館の概要（平成20年3月末現在）

委託先	自治体・機関名	山中湖情報創造館
	所在地	〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 506-296
	連絡先	TEL 0555-20-2727
		FAX 0555-62-4000
URL http://www.lib-yamanakako.jp/		
図書館の概要 (平成20年3月末現在)	職員数	7人
	開館時間	4月～12月 9:30～21:00 1月～3月 9:30～19:00
	年間開館日数	348日
	蔵書数	(AV資料・雑誌含む) 42,310冊
	利用登録者数	865人
	年間利用者数	(入館者) 132,238人 (貸出利用者) 21,391人
	年間貸出冊数	(図書のみ) 58,389冊
運営状況	平成16年度のオープン時より指定管理者（NPO法人地域資料デジタル化研究会）により運営されている。運営状況として、自動貸出・返却機の導入により、利用者のプライバシーに配慮するとともに人員を主にレファレンス部分に割り振ることができ、通年開館、長時間開館を可能にしている。また、24時間貸出・返却システムを導入している。（閉館時に16歳以上の利用登録者が利用カードを自動開閉装置に挿入すると玄関ドアが開き、風除室まで入室でき、横のロッカーから予約貸出された本を受け取るシステム。返却は風除室の返却口から行う） また、対象人口が少ないため、職員が情報検索相談など、密なレファレンスサービスを行っている。夏期には観光客、別荘住人なども多く利用している。	

※地域の現況・特色

山中湖村は、山梨県南東部の村で、中心に富士五湖の一つである山中湖が位置する。富士吉田市、忍野村、都留市、道志村、神奈川県山北町、静岡県小山町に隣接し、全域が標高1000m前後の高原で、村域の南西に富士山がある。気候が冷涼で県内有数の観光村となっており、湖北岸は別荘地となっている。夏場は首都圏や中京圏の避暑地としてにぎわう。

村内には小学校2校、中学校1校が配置されている。

面積：52.81km² 人口：6千人

(2) 事業の実施体制

事業実施にあたっては、「山中湖村図書館サービス充実支援実行委員会」を組織した。

<委員構成>

山中湖村教育委員会教育長、山中湖村教育委員会教育課長、山中湖村教育委員会係長、山中湖情報創造館館長、山中湖村中学校校長、山中小学校校長、東小学校校長、教育委員会司書 計8名

<主な役割>

事業全般に関する検討、事業の広報・告知
ワークショップの企画・運営は山中湖情報創造館館長が担当

(3) 事業体系

実施した事業は下記の3つである。

①YA（ヤングアダルト）対象とした図書館利用サービスの充実	i ジュニアライブラリアンの募集・任命
②図書館におけるメディア創作力及び情報発信力を高めるためのワークショップの開催	i コンセプトワーク ii ポスター・チラシづくりワークショップ iii CMづくりワークショップ iv フォトシネマをつくるワークショップ v 私のおススメ本を紹介するワークショップ vi 私のおススメ本（ラジオ版）ワークショップ
③ワークショップで用いるワークシート手法による図書館プログラムの企画・開発	i 上記（2）① から⑥も含め、ワークシート手法を用いたプログラムで活動

(4) 当事業に取り組んだ背景・経緯

公共図書館における児童サービスは未就園児から小学校低学年までが主であり、読み聞かせ、パネルシアター、エプロンシアターなどが主に行われている。読書離れが始まる小学校3・4年生から中・高校生に対するサービスやプログラムがほとんどない状況の中で、図書館は単に本を借りるだけの場所ということではなく、様々な楽しみ方、遊び方ができる場所であるという、「子どもの居場所づくり」のプログラムを開発できないかと模索していた。

環境教育分野ではネイチャーゲームなどを通して、自然への気づきに対する様々なプログラム開発がされているが、それと同じように図書館の本（情報）、知識を利用して「図書館ゲーム」のようなプログラム開発ができないかということが発想のもとである。そのプログラムをきっかけとして、読書推進、メディアリテラシーにつなげていきたいということで事業を企画した。

(5) 各事業の内容と現在までの取り組み状況

①YA（ヤングアダルト）対象とした図書館利用サービスの充実

i ジュニアライブラリアンの募集・任命

対象：小学校高学年から中学生

参加者：女子8名（中学3年生1名、小学6年生2名、小学5年生2名、小学4年生3名）

活動日：平成19年7月から平成20年3月まで毎週土曜日を基本に計36回の活動を行った。

<参加者が少ない要因>

中学生は時間的に多忙で参加が難しく、村内の小学校の1校は情報創造館から徒歩50分。もう1校は山中湖の対岸で車で10分の場所にあり、保護者の送迎がないと通所が不可能で、情報創造館の立地条件が子どもたちの参加を困難にしている。参加した子どもたちは、情報創造館から徒歩圏の子が多かった。参加者が少なかったことで、子どもたちと密なコミュニケーションを取りながらメディアリテラシーを養う様々な取り組みができたので、他の地域の図書館でも活用できるプログラム開発としては成果を残せた。

②図書館におけるメディア創作力及び情報発信力を高めるためのワークショップの開催

以下、6つのワークショップを開催した。

i コンセプトワーク

図書館サービス充実のためにキャッチフレーズとなる1つのコンセプトづくりを行った。

<ワークショップの流れ>

ア. 情報創造館をリサーチ

○ワークシートをもとに、いつも利用している情報創造館を客観的な視点で評価する。

○各自の感想を書き出し共有することで、ジュニアライブラリアンとしての取り組みの範囲を把握する。

イ. 本の〇〇を考えてみる

○読書推進と来館者を増やすことは同じではないという結論に達し、本好きを表現する言葉を考える。

○マンガやアニメの好きな子どもたちの参加が多かったこともあり、それぞれの本や物語に住む「本の精(あるいは妖怪)」をイメージ。そこから「本の蟲(むし)」という言葉が出てきた。

山中湖情報創造館を調査してみよう

調査員	調査日	年	月	日
ここが良い...と、思う。				
ここはイマイチ				
ここがダメ!				

情報創造館のリサーチに使ったワークシート



ワークショップの様子

ウ. 本の蟲マインドマップ

○本の蟲を中心に、読書推進と来館者増のために考えられることをマインドマップ形式で考える。

○「本の蟲グッズ」のアイデアが生まれる。

エ. 本の蟲Tシャツ

○本の蟲グッズの展開としてTシャツをつくる。

○子どもたちがラフを描き、大人がフィニッシュワーク担当してロゴマークを決定。

○そのロゴマークをもとにTシャツづくりを行う。

【取り組みのヒント】

子どもたちはワークショップにより発想の壁を取り払うことで、大人の予想以上の発想を出すことができる。

本の蟲Tシャツ



本の蟲のロゴ



ii ポスター・チラシづくりワークショップ

図書館サービスの充実や読書推進のためのポスター・チラシづくりを行った。キーコンセプトである「本の虫」を意識しつつも、自由な発想でポスターを考えた。ポスターをつくるにあたり、既存のポスターに対する調査も行った。

<ワークショップの流れ>

ア. ポスターの構成要素を分解

ポスター・チラシなどの広告がどのような構成要素で組み立てられているか資料を使って調査した。

- 一般的なポスターの構成要素を分解。
- つくりたいポスターで伝えたいことを明らかにする。
- 構成要素を考えてみる。
- サムネールを描いてみる。
- サムネールの中から決定案を絞り込む。

イ. ラフイメージづくり

- ワークシートに記入しながら、ポスターのラフイメージをつくっていく。
- ポスターの企画書（ワークシート）をもとに、ポスターに盛り込む要素を作成する。
(考えるワークショップではなく、つくり込みのワークショップ)

ポスター／チラシづくりワークショップ

日付: 2007年8月25日 (土)	名前:
【このチラシ／ポスターの目的は何か?】	
【おぼえてみよう】	



【このチラシ／ポスターを見た人に、どうなってほしいか?】	
【そのためには、何を伝えたいか?】	【何を盛り込んでほしいか?】
【標語／キャッチコピー／目を引くことば?】	
【使いたい写真?】	

ポスターづくりに使用したワークシート

ウ. メインづくり

- 数点のラフイメージから1つを選び、ポスターとしての作品づくりに取り組む。
- キャラクターをしっかりと描き込んでもらう。

エ. フィニッシュワーク

- 描き込んだキャラクターをパソコンに取り込み、子どもたちの指示を受けながら、色づけやレイアウト、文字の配置などを決める。
- プリントアウトして完成。



完成したポスター



ポスターづくりの様子

【取り組みのヒント】

ポスターを描く際、絵やイラストを描く要求が生まれ、イラストの描き方や衣装などの資料を利用したことで、子どもたちが何かを表現することで資料の需要を生み、図書館利用が促進されることがあるとわかった。

iii CMづくりワークショップ

アニメーションによる読書推進CMをつくった。こむぎ粘土を使ったクレイアニメーションの手法により、本の虫のイメージを立体化して、動きをつけたアニメーションに仕上げた。キャラクターづくり、撮影をジュニアライブラリアンが主に行い、動画化、ビデオ編集は指示を受けながら大人がフィニッシュワークを行った。

<ワークショップの流れ>

ア. まずはつくってみる

- 粘土を使って簡単なアニメーションをつくってみる。
- その感覚を得た上で、どのようなCMをつくるかを考える。

イ. 絵コンテを描く

- CMの絵コンテを1～4コママンガのカット割りの要領で描く。
- フレーム内のレイアウト等を考えながら、アニメーションの設計図を作成。

ウ. キャラクターづくり

- こむぎ粘土を用いてアニメーションのキャラクターをつくる。
- ※こむぎ粘土は色が豊富なことと、混色ができるのでよい。

エ. コマ撮り撮影

- こむぎ粘土のキャラクターを少しずつ動かしながら、クレイアニメーションの撮影を行う。
- 撮影はデジタルカメラの静止画として撮影し、15コマで1秒の感覚で1枚1枚撮影する。



絵コンテとキャラクターの作成



コマ撮り撮影

オ. 動画化

- 静止画の動画化には、Quick Time pro のイメージシーケンス読み込み機能を使う。
- その他の視覚効果や文字入れは、動画編集ソフトを使う。

iv フォトシネマをつくるワークショップ

静止画から動画をつくる方法として短時間でできる「フォトシネマ」づくりを行った。

<ワークショップの流れ>

ア. 撮影

図書館の外の風景を撮影。全体を撮るだけではなく、対象（被写体）に対してもう二歩近づくことで、何を見てほしいかがはっきりする。

イ. 動画化

- フォトシネマを操作して、静止画から動画を作成。
- 音を入れることもできる。
- テキストを入れることでメッセージを明確にすることができる。

ウ. マイクの前でおススメ本の紹介を録音

子どもたちは、最初は声を出して本の紹介を録音することを恥ずかしがっていたが、結果的には何度も行い、大変興味を示した。

録音風景



③ワークショップで用いるワークシート手法による図書館プログラムの企画・開発

記入式ワークシートを用いながら、子どもたちが自らコンテンツを創り出す体験を展開した。そのコンテンツのテーマとして、図書館サービスの充実や読書推進活動を取り入れることで、図書館ワークショッププログラムの企画・開発ができた。

また、様々なワークショップを体験すること自体が子どもたちの読解力のアップにもつながった。

活動のテーマ	使用したワークシート
キックオフミーティング	自己紹介シート
新聞記事をリサーチ	新聞記事調査ワークシート
ティーンズの読書推進プログラムをつくるための企画会議	アイデアワークシート
コンセプトワーク	本の〇〇をイメージワークシート
Tシャツづくり&企画会議	ロゴマークシート、本の蟲を考えてみようワークシート
チラシ・ポスターづくりワークショップ	チラシ・ポスターづくりワークシート、本の蟲五・七・五ワークシート、キャッチコピーワークシート、4コママンガワークシート
CMづくりワークショップ	4コママンガワークシート、絵コンテワークシート、キャラクターづくりワークシート
おススメ本のポスターづくり	私のおススメワークシート
本を読む人の気持ち、本を読まない人の気持ち	リサーチワークシート
図書館を楽しい場所に	楽しい図書館づくりワークシート
アンケートづくり	アンケートワークシート
ジュニアライブラリアンが拓く、情報創造館の可能性	情報創造館の可能性ワークシート、図書館ニュースワークシート
図書館とパソコン・インターネット	図書館とパソコンワークシート、図書館とインターネットワークシート、山中湖情報創造館のインターネットとパソコンワークシート、私のおススメ（ラジオ版）ワークシート
ワークショップを振り返って	ふりかえりワークシート

自己紹介シート

なまえ	
ニックネーム	
自分のよいところ	にがてなこと
例をしているときが好き	好きな本/モノ/その他

使用した
ワークシートの例

新聞記事を調査

調査員：	調査日： 年 月 日 ()
いつ	
どこで	
だれが	
なにを	
どうした	
わからない言葉	

(6) 事業の成果・効果と事業実施後の取り組み

①事業の成果・効果

事業の主な成果・効果は次のとおりである。

i 参加した子どもたちに様々な力がついた

作業をしていく中で、子どもたちから「〇〇をやってみたい」というアイデアが出てくるようになり、20年度に図書館に来館した際にも、何かに取り組みたいと希望する子が多かった。また、今回実施した様々なプログラムを通して、子どもたちの図書館資料活用が促進され、読解力の向上にもつながった。

ii 活動が地元テレビから注目され、図書館の新たなYAサービスのPRになった

山梨放送の「やまなし元気なび」の番組からジュニアライブラリアンの活動の取材があり、放送された。そのことにより、図書館が取り組んでいる新たなYAサービスのPRになった。

iii 他館での活用も意図した内容の報告書とDVDを作成・配布した

活動のまとめとして、活動記録、使用した各種ワークシート、ワークショップの手順等を掲載した報告書と、ジュニアライブラリアンが制作したアニメーションCM、ポスターなどを入れたDVDを作成した。また、このような取り組みが他館にも広がることを期待し、県内図書館に希望を取り、配布した。

【成功のキーポイント】

すべての活動の展開に合わせたワークシートを開発・活用して、子どもたちに取り組みやすい形にした。

作成した報告書とDVD



②事業実施後の取り組み

委託事業実施後、平成20年度の取り組みとして次の事業を実施した。

i 『READ』ポスター

20年度はジュニアライブラリアンの定期的な活動は行っていないが、アメリカ図書館協会(ALA)が読書推進のために行っている『READ』ポスターの作成キットを使って、子どもたちも含め、地域の人と一緒にその活動に取り組んでいる。今後も『READ』ポスターの活動を軸に、読書推進のための情報発信活動に取り組んでいく予定である。

館内に掲示してある作成した
「READ」ポスター



(7) 課題と今後の展望

①課題

主な課題としては次のことが挙げられる。

i 子どもたちの図書館利用の促進

館の立地条件などから、子どもたちの日常的な通所での利用が困難な状況ではあるが、魅力的なプログラムを考え、子どもたちの図書館利用の促進につなげることが必要である。

ii 指導員等の養成

図書館職員は、図書資料を中心とした図書館運営になりがちだが、他の分野での活動なども参考にし、新たな発想をもつことも必要である。そのことを基本に、当委託事業で実施したようなプログラムを開発・運営できる職員・指導員等を養成していくことが求められる。

②今後の展望

今後の展望については次のとおりである。

i 更なるプログラム開発

本や図書館の楽しみ方には様々なバリエーションがあるはずだが、「楽しむ」ためのプログラム開発がなされていないのが現状である。「楽しむ」ためのプログラムが開発されれば、図書館を「子どもの居場所」にすることができ、ヤングアダルトの利用促進にもつながると推測される。今後も小学校高学年から中高生対象のプログラムの開発に取り組んでいく予定である。

ii 開発したプログラムを全国発信

プログラム開発後には、全国の様々な図書館で展開されるように普及活動を行う予定である。誰でもどこでもできるプログラムを開発し、その手法を示したガイドブックをつかって全国に発信していきたい。その際には、出版事業による実費販売等も視野に入れている。